令和５年度学校評価計画書

廿日市市立四季が丘小学校

評価計画					自己評価					学校運営協議会	
中期経営目標 （めざす児童生徒像）	短期経営目標 （めざす児童生徒像）	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値	中間 8月	最終 2月	達成度	評価	結果と課題の分析	委員評価 コメント	改善方策
＜確かな学力＞ ・「主体的対話的で深い学び」の実践 ・「思考力・表現力」「自己有用感」の育成	・基礎・基本の徹底と学習意欲の向上	・基礎・基本の問題の繰り返し学習 ・めあて，まとめ，評価の一体化	・全国学力・学習定着状況調査の結果　全国平均以上 ・学力定着状況調査　全国平均以上	+3 以上 +3 以上	＋2.2	＋1.9	63%	C	国語科では，語句の理解や文章や資料の内容を正確に読み取ることに課題がある。語彙量や読書量の不足が原因と考えられる。 算数科では，活用問題が全学年とも全国平均を上回ることができた。しかし，足し算などの計算問題を正確に行ったり，文章題を正確に読み取り，立式をしたりすることに課題がある。 以上のことから，まず，両教科とも基礎学力を高めていく取組が必要である。	教師が丁寧に大きな字で板書を行うと，子どもたちは大切な部分に注目しやすいと思う。読む力を付けたり語彙量を増やしたりするために読書を行うことが基礎学力の定着につながっていくのではないか。基礎・基本があっての活用力なので，基礎・基本の定着をしっかり行っていく必要がある。	国語科では，基礎学力を高めるための短文の読み取り問題や漢字や語句の使い方の問題に繰り返し取り組み，語彙量を増やしていく。また，読む力を付け、語彙量を増やすために進んで読書ができるよう指導を行う。 算数科では，計算問題などに繰り返し取り組み，基礎学力を高めていく。 両教科とも，教職員が教材研究を行い，授業力を高め，より分かりやすい授業づくりを目指していく。
	◎思考力・表現力の育成 ・学びたくなる問いによる授業づくり	・協働的な学習による学び合いの場の充実 ・主体的な学びを伸ばす問いの工夫 ・授業研究の充実	・「分かりやすく工夫して相手に伝えることができる」肯定的評価の児童の割合 ・課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組む児童の割合【市共通項目】 ・「学びたくなる問いによる授業づくりに取り組んでいる」肯定的評価の教師の割合	85% 85% 85%	89% 87% 100%	85% 91% 100%	100% 107% 118%	A	「本質的な問い」の工夫，日々の授業づくりや教材研究，自由進度学習を取り入れた授業の実施などにより，主体的に学ぼうとする児童が増えている。また，研修などを通じて，協働的な学びの実現に向けて，指導方法の在り方について学び，日々の授業改善へとつなげていくことができた。	授業は非常に落ち着いた中で行えている。子ども自らが考えを発言できるような授業づくりをしている。ICT を利用して表現することも大切であるが，鉛筆で自分の考えを書く活動も大切にしていく必要があるのではないか。	「本質的な問い」を意識した授業改善や教材研究，自由進度学習を取り入れた学習を継続して行い，主体的に学び合う児童の育成を目指す。 協働的に学び合う場や，考えたことを分かりやすく相手に伝えたり，自信をもって自分の考えを伝えたりする場の設定方法などを研修し，実践していく。また思考力・表現力の育成に向けて，効果的に ICT を活用していく。
＜豊かな心＞ ・自他のよさを認め合い，友達と協働しながら，共に高まり合う児童の育成 ・自己有用感の涵養	・規範，規律，礼儀の徹底	・四季小三大名人（挨拶，靴そろえ，右側歩行）の指導と評価の徹底	・「自分から進んであいさつができる」肯定的評価の児童の割合【小中共通項目】	85%	87%	91%	107%	A	学校内やお世話になっている地域の方に向けて進んであいさつができる児童が増えている。 後は，あいさつが苦手な児童について，あいさつの大切さに気付き，自分からあいさつをしようという気持ちにさせるかについて考えていきたい。	地域の中で自ら挨拶をする子どもに育ってほしい。大人も自ら，大きな声で挨拶をするように心がけている。小学校の時は挨拶を返すことから始め，次第に積極的に挨拶ができる子どもに小中９カ年通して育ってほしい。	あいさつ名人の取組を継続して行う。あいさつが苦手な児童には，引き続き，友達や先生に小さな声や会釈からでもいいのであいさつをしていこうと呼びかける。各学級と一緒に行うあいさつ運動を引き続き行い，あいさつに慣れること，声を出すことから始めたい。

評価計画					自己評価					学校運営協議会委員評価コメント	改善方策
中期経営目標（めざす児童生徒像）	短期経営目標（めざす児童生徒像）	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値	中間 8月	最終 2月	達成	評価	結果と課題の分析		
	◎自他のよさを認め合う仲間づくり	・児童の自治的活動の充実	・「自分はクラスの人や友だちの役に立っている」肯定的評価の児童の割合【小中共通項目】	80%	76%	84%	105%	A	「たてわり班掃除」の反省会で班員のメンバーの頑張っているところを認め合う取組を行うことで効果が表れ始めていると考えられる。また，縦割り班を活用した「校内探検ツアー」では，班のみんなと協力する等，より仲が深まった。「命の大切さについて考える日」の学校朝会では，各学級の代表が各学級の取組の成果や振り返りを発表した。色々な場面で，児童が活躍できるように仕組んだことも，よい結果につながったと考える。	教室掲示から児童の自治的活動が充実していることが分かる。子ども自らの役割を明確にした学級づくりが良い。児童の自治的活動を継続して行い，児童の自己有用感の涵養に努めてほしい。	引き続き，校内探検ツアーのような異学年集団が自他の良さを認め合い，助け合いながら課題に取り組めるような活動を仕組んでいく。また，命の大切さについて考える取組のように，全校で友達のよさを見付ける活動を仕組み，自己有用感の育成につなげていく。また，教職員も励ましの声をかけるなど，肯定的に評価できるよう意識を高めていく。
＜健やかな体＞ ・基礎体力の向上と基本的な生活習慣の確立	◎基礎体力の向上	・体力テストの分析と体育科授業の質の向上	・春と秋の握力の比較，伸びた児童の割合 ・「運動をするのが楽しい」肯定的評価の児童の割合	65% 85%	63% 88%	77% 89%	118% 105%	A	継続的な取組として，月２回の体育朝会で，四季っ子体操を行ったり，授業の準備運動に握力を高める動きを取り入れたりしたことで，児童の握力が伸びた。 体育科授業の場の工夫やロング休憩を月に１回実施し，十分な運動量の確保と身体を動かす楽しさが感じられるように努めた。	ロング休憩の取組は子どもたちにとって楽しみなものになっている。楽しみながら，体力を高めていくことはとても良い取組である。	継続的な運動能力の向上を目指した様々な取組や身体を動かす楽しさが感じられるような取組を引き続き行う。また，保健体育委員と連携して，学校全体で行う体育的活動に取り組んでいきたい。
	・基本的生活習慣の定着	・家庭学習や生活リズムについての指導や取組の徹底	・家庭学習がんばろう週間中，目標時間を達成した児童の割合【小中共通項目】	85%	88%	86%	100%	A	各学級で生活リズムを整える必要性について説明したり，学年通信等で家庭への協力を呼びかけたりしたことで，高い意識をもって取り組むことができた。 学級ごとで達成率に差があるため，教員が共通の意識をもち，生活リズムが整わない児童に対してどのような対応をしていくかについて考えていきたい。	保護者の家庭学習の肯定的評価が低い。子ども自らが目的をもって家庭学習を行うことができるように，小中９カ年を見通して，検討していく必要がある。	学年の実態に応じた生活リズムの指導や学年通信にて家庭の協力を呼びかける等，児童の意識を高める活動を引き続き行っていく。そして，来年度はより高い目標値を設定して，さらに上がるように取り組んでいきたい。
＜信頼される学校＞ ・働き方改革の推進	・業務改善を通した学校組織の活性化の推進	・行事，活動の見直し，精選	・子供と向き合う時間が確保されていると感じる教師の割合【市共通項目】	80%	84%	84%	105%	A	スクール・サポート・スタッフとの連携により，事務的業務の負担軽減に努めた。また，全学年５時間授業の設定や会議等の精選，日程調整等を行い，放課後の学級事務の時間確保を行った。	今年度の取組を継続しながら，四季が丘小学校の先生方の支え学び合う職場風土をさらに醸成してほしい。	見通しをもちながら，来年度へ向けて教育活動を行うことができるように，今年度の反省を生かしながら行事内容の精選や効率的な業務遂行を継続して行う。
・コミュニティ・スクールの推進	・地域と共にある学校づくり	・地域学習の充実	・地域と連携したふるさと学習を全学年１回以上行った割合	100%	33%	100%	100%	A	全学年，四季っ子応援団，四季が丘市民センター，寿会などと連携を図りながら地域学習を実施することができた。また，学習の学びや成果を地域へ還元することも積極的に行った。	体験活動の中で子どもたちが力を付けていくことが大切である。来年度も今年度の成果と課題を基に，継続して取り組んでほしい。	全学年，地域と連携したふるさと学習を実施した。今年度の実施内容の成果と課題を整理し，来年度はさらに改善を図りながら，児童が地域の一員として活躍し，地域貢献できるような学習活動を実施する。